

アリスン・グロス

- 1 むこうの塔に住むアリスン・グロスは
北の国で一番醜い女
ある日 僕を部屋に誘って
いいこと言って 言い寄ってきた
- 2 頭を撫で 髪をすき
そつと ぼくを膝に寝かせて
「もしもおまえが 恋人になつてくれるなら
すてきなものを たくさんあげるわ」
- 3 最初に見せた真つ赤なマントは
金の花の刺繍と きれいな房の縁飾り
「もしもおまえが 恋人になつてくれるなら
この立派なマントは おまえのもの」
- 4 「あっちへ行け あっちへ行け 醜い女
近寄るな ほつといてくれ
恋人なんかになるものか
おつきあいは真つ平だ」
- 5 次に見せた柔らかい絹のシャツは
襟に真珠をちりばめたもの
「もしもおまえが 恋人になつてくれるなら
この立派なシャツは おまえのもの」
- 6 最後に見せた金のカップは
色あざやかな宝石をちりばめたもの
「もしもおまえが 恋人になつてくれるなら
この立派なカップは おまえのもの」
- 7 「あっちへ行け あっちへ行け 醜い女
近寄るな ほつといてくれ
そんな醜い口に くちづけなんかするものか
どんな贈り物をくれたって 真つ平だ」
- 8 女は 右にくるりと体を回し
三回 緑の角笛を吹き
空の月と星にかけて 呪いやがった
僕がこの世に生まれたことを悔やむがいいと
- 9 それから女は 銀の杖を取り出して

三回 くるりくるりと体を回し
呪文を唱えて 僕の力を抜きやがった
僕は気を失って 地面に倒れてしまった

10 女は 僕を醜いへびに変え

木のまわりを這わせたんだ

ああ 土曜の夜ごとに

姉さんのメイブリーがやってきて

11 僕の頭を膝にのせ

銀のたらいと銀の櫛で僕の髪をすいたんだ

でも あんな醜い口にくちづけするくらいなら

木のまわりを這ってたほうが まだまだ

12 ハロウィーンの夜

妖精の一団が馬で駆けてきたとき

妖精の女王様がヒナギクの咲く土手に降り立った

僕が横たわっていた木のすぐそばに

13 女王様は 僕を白い手に取り上げて

膝の上で 三回撫でた

そうして ふたたび元の姿に戻してくれたので

僕はもう 木のまわりを這うことはないのさ